

健診検査センターニュース

No.575 号

運営委員会より

5 月 17 日（水）平成 29 年度第 2 回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診 4 月の実施件数は、下記のとおりでした。

	4 月受診数（前年比）	累 計（前年比）	函館市国保受診率 4 月現在 0.0% / 目 標 30.0%
函館市国保	0 人（ 0 人 0.0%）	0 人（ 0 人 0.0%）	
後期高齢者	0 人（ 0 人 0.0%）	0 人（ 0 人 0.0%）	
その他	59 人（ 20 人 151.2%）	59 人（ 20 人 151.2%）	
合 計	59 人（ 20 人 151.2%）	59 人（ 20 人 151.2%）	

実施機関：38 施設／登録機関 102

- 4 月より、被用者保険被扶養者等特定健診の個別健診が始まりました。
- 函館市国保・後期高齢者の特定健診等の案内と受診券は 5 月下旬に配布となります。

2. 29 年 4 月の健診検査事業収益は、下記のとおりでした。

	4 月（前年同月比）	29 年度累計（前年比）
一般検査収入	81.0 %	81.0 %
健診収入	70.7 %	70.7 %
合 計	78.4 %	78.4 %

3. 平成 28 年度の決算について詳細な説明がされ、協議の上承認されました。

《 ちょっと一言 》

このコーナーを担当するようになって早いもので2年10ヶ月経ちました。毎月の話題は基本的に時事ネタを参考にしますので、ニュースは欠かさずチェックしますが、今回の話題は5月15日に北斗市で起きた自衛隊機の墜落事故です。航空機事故は搭乗者の死亡率が高いので「怖い」というイメージが強いですが、移動距離当たりの事故率は他の移動手段に比べて最低です。しかし低い事故率は先人の失敗をどうにかしてきたかの賜物で、一朝一夕でできるものではありません。皆さんは「失敗学」をご存知ですか？

生産活動には、事故や失敗は付き物である。これら、事故や失敗は小さなものから、経済的損失につながるもの、負傷を伴う大きなもの、さらに多数の死傷者を出す大規模なものまである。「失敗学」は、こういった事故や失敗発生の原因を解明する。さらに、経済的打撃を起こしたり、人命に関わったりするような事故・失敗を未然に防ぐ方策を提供する学問である。

<http://www.shippai.org/shippai/html/index.php>

工学系分野は物造りに失敗すると経済的損失が大きいので、失敗を共有することで、進歩してきた分野です。飛行機が減多に落ちないのも、東京スカイツリーが東日本大震災で崩れないのも、「失敗は成功の母」だからです。

ひるがえって私達の医療分野はどうでしょうか？学会発表はうまくいった話が目白押しです。たまには珍しい症例報告での失敗事例もなくはないですが、失敗を発表することで責任を問われる可能性があるため、大事に至らない失敗は誰にも知られたくないのが本音でしょう。でももし医療分野でも失敗統計が堂々と発表されたなら、実際に現場で起こる事故は間違いなく減るのではないのでしょうか？「医師の失敗統計」が学会誌に載ったら研究不熱心な医師でももっと学会誌を読むような気がします。失敗学会を立ち上げた畑村洋太郎氏は「失敗はとにかくマイナスに見られがちですが、じつは新たな創造の種となる貴重な体験なのです。」と語っています（「失敗学のすすめ」）。

（文責 小葉松 洋子）

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail: info@hma-labo.jp